

平成28事業年度

公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価結果

(案)

平成29年8月

公立大学法人福知山公立大学評価委員会

目次

I 平成28年度の業務実績評価について…… 1

II 評価結果

1 全体評価…… 4

2 大項目別評価…… 6

《公立大学法人福知山公立大学評価委員会委員》

区分	職名等	氏名
委員長	京都府立大学名誉教授 龍谷大学政策学部教授	あおやま こうぞう 青山 公三
委員長職務代理	大阪府立大学 高等教育推 進機構 教育推進課長	おおくぼ まさあき 大久保 正明
委員	社会保険労務士・行政書士 菊田学美事務所	きくた まなみ 菊田 学美
委員	学校法人共栄学園理事長	なかい ひろゆき 中井 博之
委員	細見税務会計事務所所長	ほそみ ひとし 細見 均

I 平成28年度の業務実績評価について

公立大学法人福知山公立大学評価委員会は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項及び第2項の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学（以下「法人」という。）の平成28年度における業務の実績について、「公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価方針」及び「公立大学法人福知山公立大学に関する年度評価実施要領」により評価を行った。

1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、法人の教育研究の特性や運営の自主性、自立性に配慮して行うものとする。
- (2) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の組織・業務運営等に関して総合的に行い、改善すべき点等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資するものとする。
- (3) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- (4) 評価を通じて、法人の中期目標・中期計画の達成に向けた取り組み状況やその成果をわかりやすく示し、市民への説明責任を果たすものとする。
- (5) 評価方法については、必要に応じて工夫・改善を行うものとする。

2 評価方法

- (1) 評価は、法人による自己評価を聴取した上で行った。
- (2) 評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行った。
- (3) 「項目別評価」は、「小項目別評価」及び「大項目別評価」により行った。

小項目別評価

年度計画の記載項目（小項目）ごとの進捗状況又は実施状況を確認し、評価を行った。

評価	進捗状況（実施状況）
5	年度計画を大幅に上回って実施している（特に優れる若しくは顕著な成果がある）
4	年度計画を上回って実施している（上回る若しくは十分な実施状況）
3	年度計画を概ね実施している（実施）
2	年度計画を十分に実施できていない（下回る若しくは実施が不十分）
1	年度計画を大幅に下回っている（特に劣る若しくは実施していない）

大項目別評価

小項目別評価の結果を踏まえ、6つの大項目（8区分）ごとに、中期計画の進捗状況について評価を行った。

(1) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
①教育の質の向上に関する目標を達成するための措置
②研究の質の向上に関する目標を達成するための措置
③地域協働（地域貢献）の質の向上に関する目標を達成するための措置
(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
(4) 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置
(5) その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置
(6) 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項

評価	評価基準	判断の目安
S	中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。	<ul style="list-style-type: none"> 小項目別評価の各項目の評定の平均値が4.3以上であり、かつ、業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取り組みがあると評価委員会が認める場合。
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。	<ul style="list-style-type: none"> 小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.5以上4.2以下であり、かつ、評価委員会が「A」と認める場合。 小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.5以上4.2以下に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「A」相当と認める場合。
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。	<ul style="list-style-type: none"> 小項目別評価の各項目の評定の平均値が2.7以上3.4以下であり、かつ、評価委員会が「B」相当と認める場合。 小項目別評価の各項目の評定の平均値が2.7以上3.4以下に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「B」相当と認める場合。
C	中期計画の達成のためには進捗が遅れている。	<ul style="list-style-type: none"> 小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9以上2.6以下であり、かつ、評価委員会が「C」相当と認める場合。 小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9以上2.6以下に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「C」相当と認める場合。
D	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。	<ul style="list-style-type: none"> 小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.8以下であり、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると、評価委員会が認める場合。

全体評価

「項目別評価」の結果を踏まえ、法人の中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

評価	評価基準
S	中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。
C	中期計画の達成のためには進捗が遅れている。
D	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

Ⅱ 評価結果

1 全体評価

(1) 評価結果

評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

(2) 総評

法人は、北近畿地域唯一の4年制公立大学として、平成28年4月1日に設立された。

法人は、教育のまち福知山における「学びの拠点」として、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）に基づき、福知山公立大学（以下「大学」という。）を設置し、及び管理することにより、総合的な知識と専門的な学術を深く教授研究するとともに、地域協働型教育研究を積極的に展開することにより、地域に根ざし、世界を視野に活躍できる高度な知識及び技能を有する人材を育成し、北近畿地域の持続可能な地域社会の形成と地方創生に寄与することを目的としている。

開学初年度である平成28年度の業務実績については、理事長のリーダーシップのもと、理事会、経営審議会、教育研究審議会、各委員会が設置されるなど運営組織体制の整備が図られるとともに、ファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）に係る研修会・勉強会を定期的を開催するなど教職員間の連携・協力関係が構築され、限られた教職員数の中で機動的な大学運営に取り組まれている。

安定的な法人経営・大学運営を図るうえで、最も重要となる入学者の確保については、平成29年度入試において、入学定員120人を上回る146人の入学者（編入学者12人を含めると158人）を確保したとともに、46都道府県から926人という多くの志願者があった。特に志願者倍率については、全国の国公立大学の中で第5位となる11.6倍であった。これらの結果は、教職員の協力体制により、入試説明会や高校訪問など継続的な学生募集活動を実践された成果であると高く評価できる。しかし、全国から多数の志願者を集めることができた反面、地元である北近畿地域からの志願者が46人と少ないことが課題であり、大学が真に「地域のための大学」となるためには、さらなる取り組みが必要である。若者の地元定着が地域の課題となっている昨今、北近畿地域の持続可能な地域社会の形成と地方創生に寄与することを目的とする法人の責務として、地元の高校生が入学したいと思える大学となるよう、大学の魅力づくりや効果的な情報発信により一層取り組んでいただきたい。

以上のような状況や、6つの大項目（8区分）別評価結果のいずれもが「B」（中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。）となっている状況を総合的に勘案すると、全体評価は、「B」（中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。）と評価する。

しかしながら、志願者の増加要因は公立大学法人化したことによる効果が大きいことも事実であり、今後、全国で公立大学の新設が予定されていることや18歳人口の減少が進行していくことを考えると、大学間競争はますます激化することが予想される。

開学の経緯を考えると、法人には様々な問題が山積している状態にあると推察されるが、法人は、現時点の成果に満足することなく、今回明らかとなった課題を十分点検し、必要な改善を施していただきたい。加えて、今後急激に変化していく社会環境への対応や社会の期待に応えるため、常にガバナンス体制の点検・見直しと教職員の意識改革を行い、教育・研究・地域貢献機能の最大化に取り組んでいただきたい。

また、大学には経年による老朽化した施設・設備が存在している。開学から数年間は収支不足を福知山市の一般財源により賄わなければならないという厳しい財政状況であることは理解するが、教育環境の充実、適正な教職員体制の確保、定員増員計画及び大学の発展に不可欠な要素については、適切かつ計画的に対応すべきである。学生にとって充実した教育環境の提供、また、今後の定員増員計画に対応できるように、長期的視野に基づいた改修計画を立て、施設・設備の整備を検討いただきたい。

【大項目別評価結果】

大項目	評価結果	S	A	B	C	D
		中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である	中期計画の達成に向け順調に進捗している	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している	中期計画の達成のためには進捗が遅れている	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置	B			○		
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置	B			○		
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 地域協働(地域貢献)の質の向上に関する目標を達成するための措置	B			○		
第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	B			○		
第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	B			○		
第7 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置	B			○		
第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	B			○		
第14 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項	B			○		

2 大項目別評価

第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置

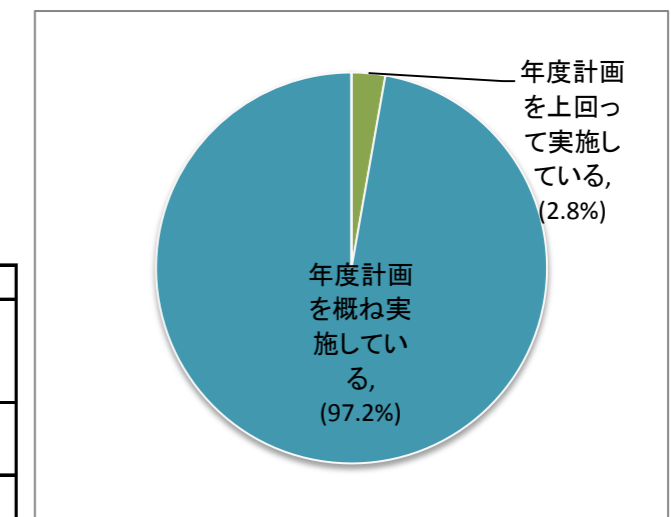
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均値
3.0

(1) 評価理由

小項目別評価において、36項目中1項目が「4」（年度計画を上回って実施している）、35項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となり、評定平均値が3.0となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	36	0	1	35	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(2.8%)	(97.2%)	(0.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

- アクティブ・ラーニングを通じた主体的な学びを推進させるため、シラバスの記載内容の充実を図っている。
- 教職員の協力体制により、入試説明会や高校訪問など継続的な学生募集活動を実践し、全国各地から多数の志願者を集めている。
- 開学の経緯を考えると、様々な問題が山積している状態であろうと推察されるが、その中で教育の質の向上に向けて努力されている。
- 各学期に授業評価アンケートを実施し、「受講者へのコメント」を学生に公表したことは、授業内容・方法等の改善及び向上に向けて有効である。
- 学生からの評価の高い授業科目を対象として、教職員による授業参観を実施したことは有効である。

(課題となる点等)

- 全国から多数の志願者を集めたことが評価される反面、地元である北近畿地域からの志願者が46人と少ない。真に「地域のための大学」となるためのさらなる取り組みが必要である。

- 教育の成果、教育の内容、教育の実施体制に関する目標を達成するために様々な取り組みをされているが、中期目標と中期計画の達成に向けて、どのような狙いで、どのような内容の改善を、どの程度実行されたのかについて、業務実績報告書に十分な記述がなされていない。
- 北近畿地域各市町でのフィールド学修の実施は評価できるが、学生にとっての学修アウトカム（学修成果）はどうだったのかについて業務実績報告書に十分な記述がなされていない。

2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置

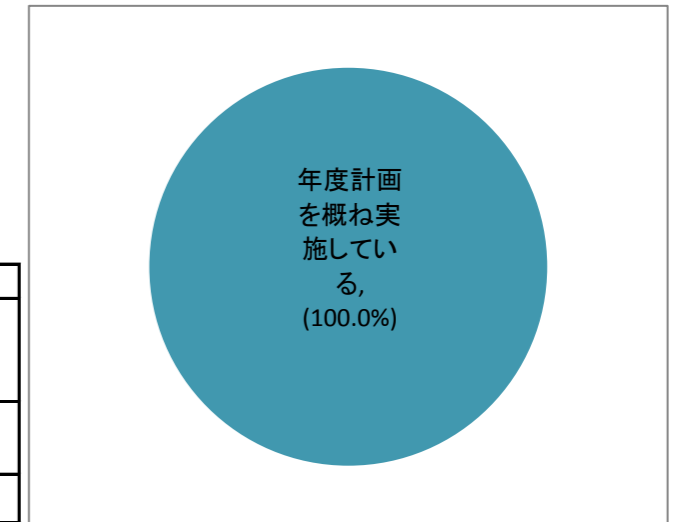
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均値
3.0

(1) 評価理由

小項目別評価において、8項目中8項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となり、評定平均値が3.0となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	8	0	0	8	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

- 開学の経緯を考えると、様々な問題が山積している状態であろうと推察されるが、その中で研究の質の向上に向けて努力されている。

(課題となる点等)

- 研究水準及び研究の成果、研究の実施体制に関する目標を達成するために様々な取り組みをされているが、中期目標と中期計画の達成に向けて、どのような狙いで、どのような内容の改善を、どの程度実行されたのかについて、業務実績報告書に十分な記述がなされていない。
- 京都府北部5市2町を中心とした地域の統計資料等の収集を行い、メディアセンターやブラウジングコーナーに配置したとあるが、紙媒体資料の収集だけでなく、データベースの構築を検討いただきたい。
- 外部資金の獲得に関する取り組みを推進するため、数値目標の設定を検討いただきたい。
- 研究倫理に関わるオンラインテストの受講を検討いただきたい。

3 地域協働（地域貢献）の質の向上に関する目標を達成するための措置

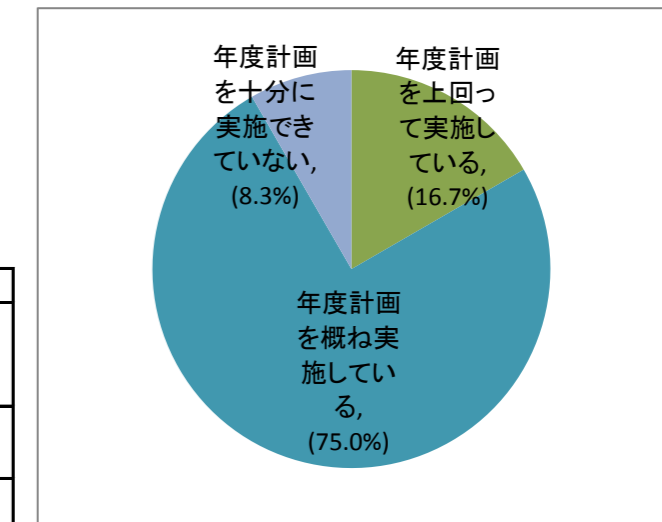
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均値
3.1

(1) 評価理由

小項目別評価において、12項目中2項目が「4」（年度計画を上回って実施している）、9項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となった。1項目が「2」（年度計画を十分に実施できていない）という評価結果であるものの、評定平均値が3.1となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	12	0	2	9	1	0
	構成比(%)	(0.0%)	(16.7%)	(75.0%)	(8.3%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

- 「北近畿地域連携センター」が拠点となり、学生を巻き込む形で積極的な連携・協働活動が展開できており、今後もさらなる発展が期待される。
- 地元企業等合同就職説明会を開催し、福知山公立大学の多数の学生が参加したことは評価できる。地元優秀な人材が就職し定着することを目指し、さらに取り組みを進めてもらいたい。
- 開学の経緯を考えると、様々な問題が山積している状態であろうと推察されるが、その中で地域連携・地域協働の質の向上に向けて努力されている。

(課題となる点等)

- 地域の特性やニーズを考慮したテーマ設定により、イベントのマンネリ化を防止するための工夫や、近隣自治体等との連携・協力体制をさらに進める必要がある。
- 多世代人材育成、持続可能な社会形成への学術アプローチ、地域連携・地域協働、社会貢献に関する目標を達成するために様々な取り組みをされているが、中期目標と中期計画の達成に向けて、どのような狙いで、どのような内容の改善を、どの程度実行されたのかについて、業務実績報告書に十分な記述がなされていない。
- 研究成果を積極的かつ有効的に活用いただきたい。
- 地域と連携して実践活動に取り組み、学生の就職活動支援に繋げていただきたい。

第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

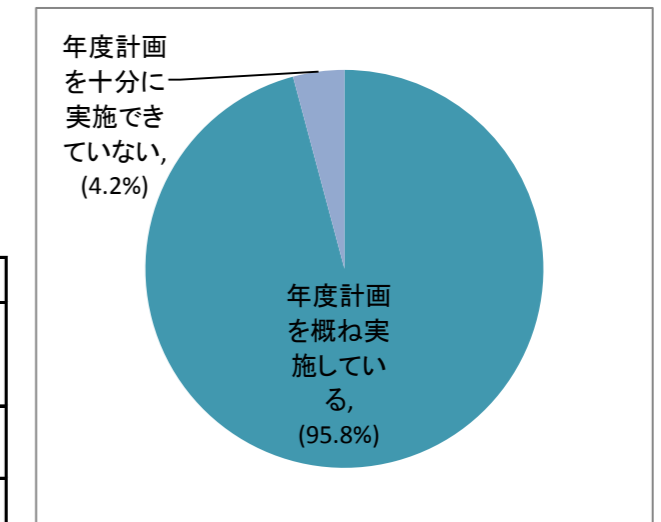
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均値
3.0

(1) 評価理由

小項目別評価において、24項目中23項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となった。1項目が「2」（年度計画を十分に実施できていない）という評価結果であるものの、評定平均値が3.0となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	24	0	0	23	1	0
	構成比(%)	(0.0%)	(0.0%)	(95.8%)	(4.2%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

- 教育・研究や地域貢献活動について、大学Webページだけでなく、facebook等のSNSを活用して積極的に広報している。
- 開学の経緯を考えると、様々な問題が山積している状態であろうと推察されるが、その中で業務運営の改善及び効率化に向けて努力されている。
- 授業アンケートを授業内容方法の改善に有効に活用するための努力がなされている。
- 積極的な情報発信と発信手段の工夫がされている。市民の目に留まりやすい地元新聞に活動が報じられる機会が多く、大学の1年目の活動が可視化されることで市民の安心感につながっている。
- 自己点検・評価委員会、運営会議等をはじめとする各種会議について、情報共有化の面からも、今後も引き続き定期的、積極的に行っていただきたい。

(課題となる点等)

- 講演会や公開講座等のイベントにおいてアンケートを実施していることは評価できるが、アンケートだけでは「大学の活動に係る地域のニーズ」を的確に把握することは困難である。「市民向け成果報告会」などを通じたニーズ把握のための一層の努力が求められる。
- 教員及び事務職員ともに不足しており、特に事務職員が不足しているとの自己点検結果であるが、過重労働を避けるためにも早期に具体的な採用活動を進め、適正な教職員体制を確保する必要がある。

- 中期目標と中期計画を限られた人員で達成するためには、業務運営の改善及び効率化が不可欠である。その点では、平成28年度の取り組みは十分とは言えないため、年度計画を大きく上回るほどの十分な取り組みと確実な成果が強く望まれる。18歳人口減少の進行による競争の激化を考えると、確実に成果を出す必要がある。実行力を有する人材の増員を行うなど、早急に有効な対応を行う必要がある。
- 教職員の職務遂行能力を高め、職務実績を適切に評価するために、教職員人事評価制度を早期に整備いただきたい。
- ホームページ、SNS、また各メディアへの発信以外にも、自治会回覧等を利用し、一般市民にペーパーでの案内も行うなど、多くの市民に関心を持ってもらえる情報発信を行っていただきたい。
- 教育・研究、地域貢献の実績やイベント情報のメディアへの情報提供回数等について、数値目標を設けることを検討いただきたい。
- 改修工事において工期遅れが生じたとのことだが、工事や業務等の発注にあたっては、学内活動に影響が生じないように、予算計画作成時等において、実施に係る検証を十分に行っていただきたい。

第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

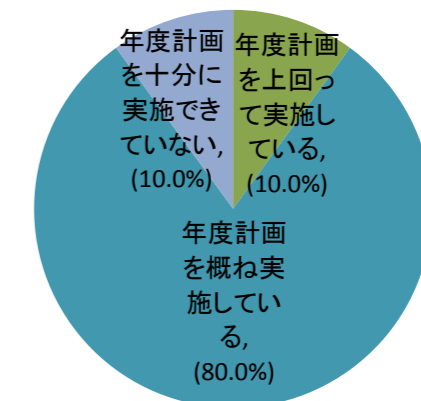
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均値
3.0

(1) 評価理由

小項目別評価において、20項目中2項目が「4」（年度計画を上回って実施している）、16項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となった。2項目が「2」（年度計画を十分に実施できていない）という評価結果であるものの、評定平均値が3.0となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	20	0	2	16	2	0
	構成比(%)	(0.0%)	(10.0%)	(80.0%)	(10.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

- 厳しい財政状況の中で安定的な法人経営・大学運営に向けて支出抑制と収入確保に努められている。
- 高校への出張講義や教員派遣による学問分野説明会は、地域への効果的な広報である。今後も引き続き実施いただきたい。

(課題となる点等)

- 経営採算ラインである1学年定員200人を目指した定員増加の取り組みが今後進むと思われるが、適切な教育環境を提供できるだけのインフラや教職員配置が必須であり、明確な将来計画の策定が必要である。
- 経営基盤をより強固なものにすることはもちろん重要であり、また、適切な人事制度の構築と改善によって組織を活性化させることも重要である。このような取り組みは、教育、研究、地域協働の成果と密接に関係するため、中期計画と年度計画を具体化し、着実に進めていく必要がある。
- 安定的な法人経営・大学運営のためには、毎年度、優秀な入学生を確保することが重要であり、安定して入学志願者を確保するための学生募集戦略が必要である。志願者確保に向けて引き続き高校訪問等を実施いただくことを望むが、訪問回数が志願者増につながったのかどうか検証いただく必要がある。
- 企業や各種団体等からの外部資金を確保するための制度を設計いただきたい。
- 各高校の進路指導教員の意識が大きく志願者に影響すると聞くため、高校訪問だけでなく、様々な取り組みを通じて高校教員との信頼関係の構築に努め、北近畿地域からの志願者、入学者の獲得に向けて取り組まれるとともに、これまで入学者、志願者のない高校にも積極的にアプローチいただきたい。
- オープンキャンパス参加者に定期的に本学の情報を発信するなど、アフターフォローに注力いただきたい。
- 大学施設利用の促進を図るため、情報発信を工夫いただきたい。

第7 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置

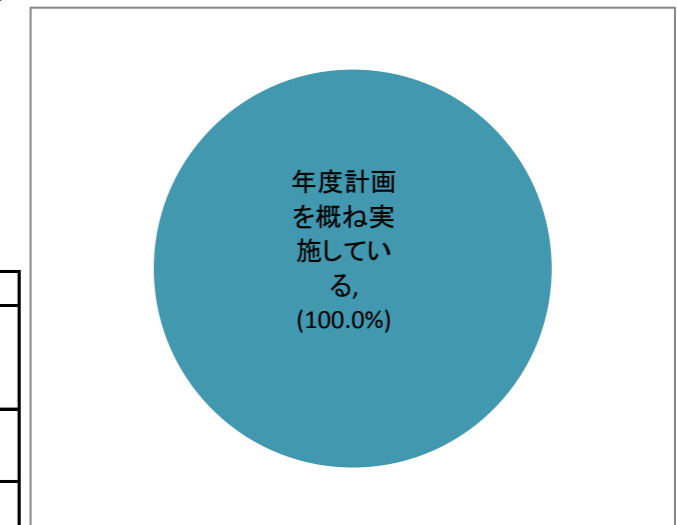
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均値
3.0

(1) 評価理由

小項目別評価において、11項目中11項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となり、評定平均値が3.0となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	11	0	0	11	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

○ 福知山公立大学ホームページ等で積極的な広報が実施されており、活動状況が公表されている。

(課題となる点等)

○ 効果的な広報活動の目的を考えると、マスメディア等への情報発信は効果が高く重要であるため、積極的に活用いただきたい。ただし、大学のアピール活動と同時に不名誉な情報拡散の防止の観点も重要であるため、マスメディア等への対応は的確に行う必要がある。また、SNS等を活用した情報発信も有効ではあるが、個人情報等が漏洩することのないように、情報セキュリティ対策は確実に行っていただきたい。

○ 年度計画は、自己点検・評価が的確に実施できるように、できるだけ数値目標を掲げる努力をお願いしたい。また、法人の自己点検「計画の実施状況」欄において、中期目標又は中期計画と年度計画の整合性が明確でない箇所が少なくない。自己点検・評価結果を次年度以降有効に活用するためには、「計画の実施状況」欄の記載方法を改善していく必要がある。

第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

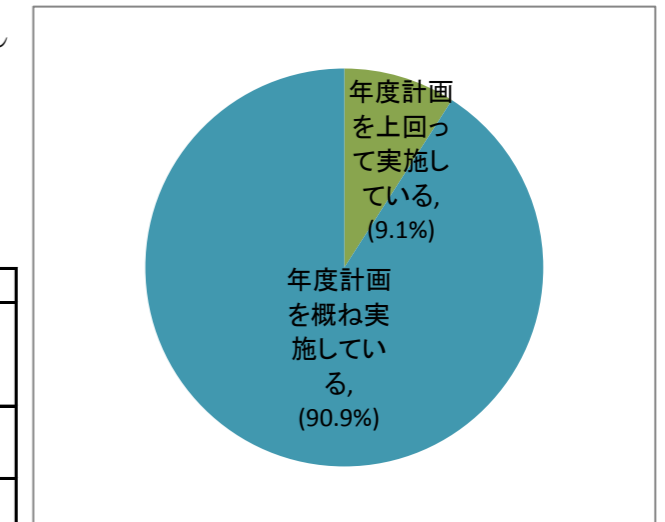
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評定平均値
3.1

(1) 評価理由

小項目別評価において、11項目中1項目が「4」（年度計画を上回って実施している）、10項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となり、評定平均値が3.1となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	11	0	1	10	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(9.1%)	(90.9%)	(0.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(課題となる点等)

- 老朽化した施設・設備が多々あると推察するが、当面の修繕・改修に留まらず、計画的に整備や改修をするためには、施設全体の現状を把握し、長期的視野に立った改修計画を立てた上で整備を検討する必要がある。

第14 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項

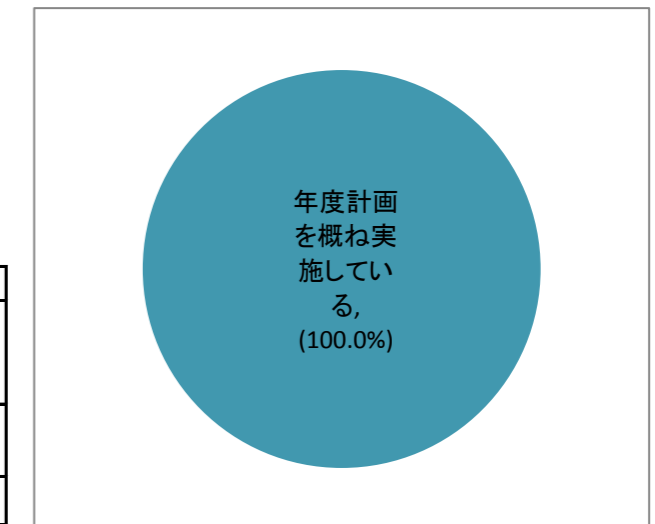
評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評価平均値
3.0

(1) 評価理由

小項目別評価において、4項目中4項目が「3」（年度計画を概ね実施している）の評価結果となり、評価平均値が3.0となっているため、大項目別評価としては、「B」評価であり、中期計画の達成に向け概ね順調に進捗していると認められる。

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	4	0	0	4	0	0
	構成比(%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(課題となる点等)

- 既存施設の維持管理はもちろんのこと、定員増に対応し学生にとって充実した学修環境を提供できるよう、さらなる施設拡充を期待する。
- 施設・設備に対する対応については、財源等の問題もあると推察するが、中期目標・中期計画の達成及び福知山公立大学の発展に不可欠な要素については、適切かつ計画的に対処すべきである。
- 老朽化した施設・設備が多々あると推察するが、当面の修繕・改修に留まらず、計画的に整備や改修をするためには、施設全体の現状を把握し、長期的視野に立った改修計画を立てた上で整備を検討する必要がある。